

笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校  
 令和2年度 飯野中学校 学校だより 第15号  
 自律 志保井が丘 協働  
 挑戦 2020.6.17 発行 文責 校長 目黒 満 創造  
 教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

## 感染予防対策下での授業の工夫

学校の通常営業が再開されて2週目となりました。心配していた感染の発生や登下校時の事故、生活リズムの変化への不応や部活動での疲労の蓄積・大きな怪我なども見られず、笑顔で学校生活を送ることができています。

でも、学校の大きな柱となる授業では、感染予防対策のため、未だに実施できない学習活動があります。人同士の間隔をとる、対面での話し合いは感染対策を取って行う、体育では原則マスクをはずすが常に十分な距離を確保する、手を繋いだり組みあったりする種目は現状では実施しない、音楽では大声での発声はしない等の制約の下で、様々な工夫をしながら授業を行っています。

教科によっては、メインとなる学習活動が実施できないという状況にあります。例えば体育の柔道は現状では実施困難です。音楽では、本校の自慢でもある合唱、それこそ大声での発声ですので歌えません。

「音楽の時間に歌えない？」それって、陶芸をするのに焼き窯が壊れていて使えないようなものかもしれません。焼き窯がなくても野焼きをすれば、縄文・弥生式の土器程度なら焼成できます。ちゃんとした焼き物をしたければ窯がなおるまで待つことが出来ればいいのですが、学校の授業は始まっていますし、いつなおるのか（感染予防対策が終わるのか）も見えないのでやるしかない状況にあります。制限のある現状においては、こうした教科本来の目的が、いくら工夫をしても十分には果たせない可能性が出てしまうのです。（良い例えかどうか不安ですが・・・）

そんな難題が今の学校の毎日の授業の中で日々発生し、指導する教師は、これまでに経験したことのない「新しい授業様式」の創造・挑戦に取り組んでいます。



左の絵は、そうした創造・工夫・苦勞の一つです。これは2年生の音楽・合唱の「生命が羽ばたくとき」と

いう題材の授業で生徒が描いたものです。とても上手で歌詞のイメージがとてもよく表現されています。素晴らしいですね。

本来であれば合唱曲を練習し、歌唱表現を工夫してみんなで合唱をつくりあげる題材なのですが、大声での発声ができないので、小さな声やハミングで歌唱をして、曲のイメージを自分なりに表現したものです。

この作品には生徒の想像力や表現力は十分に発揮されており、素晴らしい出来栄だと思います。でも「音楽」の授業として見たとき、担当教師自身、納得できているわけではありません。これまで通り実際に声を出し、表現を工夫しながら何度も歌ってみてはじめて、その曲やハーモニーの美しさ、歌詞の中味を味わうことができ、そうした活動を通して初めて合唱の素晴らしさを体験できるのだと思います。でも現状では、こうした工夫や苦勞をしながら授業を進めるしかない状況です。

7月のフリー参観では、それぞれの授業をご覧いただきますが、こうした感染予防対策の中での制約下の授業となることをご理解いただければと思います。

## きれいな季節のお花をいただきました！

本校生徒の祖母にあたる安齋さんから、紫色の「カンパニュラ（風鈴草）」をたくさんいただきました。安齋さんは以前、本校に勤務されており、よく優しいお心遣いをしていただいています。本校正面玄関の2箇所と校長室に飾っています。

ありがとうございます。

